

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 1 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26463336

研究課題名(和文) 乳がん患者の療養を支援する外来看護相談支援プログラムの構築

研究課題名(英文) Construction of an outpatient nursing consultation model that supports for breast cancer patients

研究代表者

阿部 恭子 (Abe, Kyoko)

千葉大学・医学部附属病院・技術補佐員

研究者番号：00400820

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、乳がんにて特化した外来看護相談支援プログラムを構築するために、外来看護相談支援モデルの活用マニュアルと外来看護相談支援記録ツール・外来看護相談支援評価ツールの開発を目的とする。外来看護相談支援モデルの活用マニュアルに含める具体的なケアの留意点として9項目あった。外来看護相談支援記録ツールに含める相談内容は15項目、支援内容は16項目あった。外来看護相談支援評価ツールに含めるアウトカム評価は、患者の治療や療養への向き合い方の変化に関する10項目があった。

研究成果の概要(英文)：This study aims to develop an outpatient nursing consultation model utilization manual, an outpatient nursing consultation recording tool, and an outpatient nursing consultation evaluation tool in order to construct an outpatient nursing consultation program specialized for breast cancer. There were nine items to be noted in concrete care to be included in the application manual of outpatient nursing consultation model. There were 15 consultation contents included in the outpatient nursing consultation recording tool and 16 items of support contents. Outcome assessment to be included in outpatient nursing counseling evaluation tool had ten items concerning patient's treatment and changes in how to face medical treatment.

研究分野：医歯薬学

キーワード：乳がん 外来看護 看護相談 認定看護師 相談支援 相談外来 がん看護

1. 研究開始当初の背景

わが国における乳がんは年々増加しており、女性の臓器別がん罹患率の第1位である。年間約6万人が乳がんと診断されている。乳がんに罹患する年齢は45～54歳がピークであり、他臓器のがんに比べて比較的低く、患者は社会や家庭での役割も大きい。そのため患者は、乳がん罹患という精神的に不安定な状態になりながらも、職場や家庭での役割を遂行しなければならず、さらに精神的な負担が大きくなる。また、乳がんの初期治療では、腫瘍縮小と全身の微小転移の根絶を目的とする術前化学療法をするかどうか、乳房温存療法か乳房切除術か、腋窩リンパ節郭清かセンチネルリンパ節生検か、乳房切除術後に乳房再建をするかどうかなど、患者自身に複雑な治療選択が求められるため患者は治療選択の困難感を抱えている。さらに、手術による乳房の喪失や変形や化学療法による脱毛などのボディイメージの変容を生じることにも精神的な負担となる。ボディイメージの変容に対しては、乳房の補整パッド・補整下着やかつらなどを使用することで日常生活への影響を軽減することが可能である。しかし、補整パッド・補整下着やかつらには様々な形状・素材・価格の製品があり、個々の患者の状況やニーズに合うものを選択するのは容易ではない。乳がんの初期治療後は定期検診を10年間行うが、その間、乳がん患者は再発・転移への不安を抱えながら日々を過ごす。再発・転移の際には、初発時より精神的衝撃が大きく、予後への不安を抱えながら外来通院で薬物療法を受けることとなる。さらに、病状の進行時には、終末期を在宅で過ごすかホスピスで過ごすかという療養の場の選択も必要となる。このように、乳がん患者は診断から終末期まで様々な困難を抱えている。通常の外来や病棟での看護支援では困難の解決は難しい現状にあるため、乳腺看護外来や乳がん看護相談などでの看護師による相談支援の取り組みが始まっている。さらに、乳がん看護認定看護師の半数が看護相談に携わっているという報告もある。

そこで研究者らは、平成22～25年度科学研究費補助金を得て、乳がん患者への相談支援の現状と課題を明らかにするとともに、「乳がん患者の療養を支援する外来看護相談支援モデル」を開発した。この「乳がん患者の療養を支援する外来看護相談支援モデル」は、看護師の知識（最新の乳がんの治療とケア）とスキル（潜在的・顕在的問題の把握、優先性の判断、患者・家族とのコミュニケーション、多職種との連携・調整）を基盤として、心理的支援、情報活用支援、意思決定支援、問題解決支援、セルフケア支援の5つを看護過程に則りケア展開していることが示された。また、相談過程は、「導入」≪関係性の構築≫≪ニーズの探索≫≪ニーズの明確化≫≪優先順位の決定≫≪目標設定≫≪支援方法の検討≫≪支援の実施≫≪支

援の終結≫≪評価≫の10のフェーズが明らかになった。

本研究では、開発した乳がん患者への外来看護相談支援モデルの活用マニュアルと、外来看護相談支援記録ツール、外来看護相談支援評価ツールを開発し、これらから成る乳がん患者に特化した看護相談支援プログラムの構築を目指すことにより、乳がん患者への外来看護相談支援の推進を図り、ひいては、乳がん患者のより充実した療養生活の実現を支援し、国内の乳がん患者のクオリティオブライフの向上に貢献できるといえる。

2. 研究の目的

乳がんの特化した外来看護相談支援プログラムを構築するために、本研究課題では、以下の調査に取り組む。

- (1) 外来看護相談支援モデルの活用マニュアルと外来看護相談支援記録ツール・外来看護相談支援評価ツールを開発する。
- (2) 多施設での外来看護相談支援プログラムの展開・評価および情報発信を図る。

3. 研究の方法

(1) について

- ① 外来看護相談支援モデルの活用マニュアルの開発

先行研究¹⁾等および筆者らが行った乳がん看護相談を受けた患者に対する調査から、患者のがん看護相談におけるケアに対する認知や期待に関する記述を抽出し質的帰納的分析を行う。得られた要素から留意事項を考察し乳がん患者の療養を支援する外来看護相談支援モデルの相談過程のフェーズにおける具体的ケアの留意点として示す。

- ② 外来看護相談支援記録ツール・外来看護相談支援評価ツールの開発

がん看護相談およびがん相談に関する先行研究について、医学中央雑誌で「がん看護相談」または「がん看護外来」のキーワードで検索して得られた文献の原著論文または会議録のうち、入手可能かつがん看護相談について記述された文献から、相談内容、支援内容、アウトカム評価について記述している部分を抽出し、質的帰納的分析を行う。得られた要素を考察し外来看護相談支援記録ツール・外来看護相談支援評価ツールに含める。

(2) について

がん看護および乳がん看護関連の学術集会等において外来看護相談支援モデルについて示し、看護師の意見を踏まえて、プログラム展開・評価に必要な具体的要素を把握する。

4. 研究成果

【目的(1)について】

- ① 外来看護相談支援モデルの活用マニュアルの開発

患者のがん看護相談におけるケアに対する認知や期待は、1. ニードに沿う豊富な情報提供、2. 確かな知識と経験に基づく信頼感、3. 受容的な姿勢と見守り、4. 気遣いのある柔和な人間性、5. 複雑で苦しい心境の共有、6. いつでも相談できる気軽さ、7. 多職種への患者を尊重する働きかけ、8. 本当に聴いてくれて不安を話せる安心感、9. 実施可能なセルフケア方法の提案の 9 に集約された。これらの要素から留意事項を考察した。乳がん患者の療養を支援する外来看護相談支援モデルの相談支援のフェーズに相当する具体的ケアの留意点を表 1 に示す。

表 1：相談支援のフェーズにおけるケアの留意点導入

・ 受容的であたたかい見守りの姿勢を示す
関係性の構築
・ 知識と経験に基づき信頼を得る
・ 気遣いのある柔和な態度を示す
・ 傾聴し不安を受けとめる
ニーズの探索・ニーズの明確化
・ 複雑で苦しい心境を共有する
優先順位の決定・目標設定・支援方法の検討
・ 実施可能なセルフケア方法を提案する
支援の実施
・ ニーズに沿う豊富な情報提供をする
・ 多職種に患者を尊重する働きかけを促す
支援の終結・支援の評価
・ 気軽にいつでも相談できることを伝える

② 外来看護相談支援記録ツール・外来看護相談支援評価ツールの開発

文献は、101 あり、そのうち、入手可能かつがん看護相談について記述された 32 文献を対象とした。外来看護相談支援記録ツールに含める相談内容は 15 項目、支援内容は 16 項目に集約された。表 2 に相談内容を、表 3 に支援内容を示す。

表 2：相談内容

心理・精神的苦痛
初発治療*
治療による症状・副作用
リンパ浮腫
乳房の変形・喪失
外見の変化
生活での気がかり
再発治療
病状進行による症状
家族・周囲の人との関係
就労・仕事の悩み
経済的な悩み
医療者との関係
療養場所の悩み
遺伝学的検査の適応

注*：妊よう性への影響を含む

表 3：支援内容

傾聴・情緒的支援
悩み・問題の整理

病気・治療の情報の整理・提供
意思決定支援
治療の副作用へのセルフケア支援
乳房補整の支援
リンパ浮腫のセルフケア支援
アピアランス支援
生活での気がかりへの支援
病状進行の症状へのセルフケア支援
家族・周囲の人間関係への支援
就労・仕事への支援
経済面への支援
医療者との関わり方の支援
療養場所に関する支援
遺伝学的検査の悩み・問題の整理と情報提供

アウトカム評価に関する記述から、A. 患者によるアウトカムの評価：相談支援に対する満足度、患者が変化したと思う内容とその程度、相談支援を行った看護師に対する満足度、相談支援システムに対する評価、B. 相談を実施した看護師によるアウトカムの評価：看護師が認識する患者の変化の内容とその程度、C：看護師の支援内容への自己評価、が得られた。

患者の変化を評価する記述は、相談内容毎の変化の程度を評価する視点と、治療や療養への向き合い方の変化を評価する視点があった。乳がん患者の治療や療養への向き合い方の変化に関する評価項目は 10 あった(表 4 に示す)。この 10 項目を外来看護相談支援評価ツールに含めた。

表 4：乳がん患者の治療や療養への向き合い方の変化に関する評価項目

乳がんの治療や生活に前向きな気持ちになる
悩み・気がかりに主体的に取り組む
自分の状況や悩み・気がかりを理解する
悩み・気がかりへの対処方法がわかる
孤独な気持ちが軽減する
つらい気持ちや不安が和らぎ安心する
乳がんとともに生活するイメージができる
乳がん治療や生活について今後の見通しがつく
悩みを相談できる人やサービスを理解する
周囲の人と乳がんについて話しやすくなる

この評価項目は、先行研究に基づく質的帰納的分析から得られ、相談支援によってもたらされる患者の変化は個別性が高く主観的であるが、患者による満足度の評価について相談支援を行った看護師のみならず、組織的に情報共有することの重要性が指摘されている²⁾。

【目的(2)について】

がん看護および乳がん看護関連の学術集会等において外来看護相談支援モデルについて示すための準備に取り組んでいる。特に、医療機関における既存のデータマネジメントとの汎用性を踏まえて、デジタルコンテンツ化を検討する必要がある。

<引用文献>

- 1) 高山良子, 徳岡良恵, 根岸恵, ほか, がん看護専門看護師によるがん看護外来に関する成果研究 がん看護専門看護師、患者・家族、多職種医療従事者による成果の評価, 木村看護教育振興財団看護研究集録, 23, 54-67, 2016.
- 2) Karyl D. Blaseg, Penny Daugherty, Oncology Nurse Navigation: Delivering Patient-Centered Care Across the Continuum, ONS, 2014, 233-273.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

- ① 阿部恭子, 乳がん罹患した女性について, 助産雑誌, 72(2), 103-109, 2018. 査読無
- ② 阿部恭子, 初発乳がんケアの要点. がん看護, 22(6), 577-580, 2017. 査読無
- ③ 阿部恭子, 井関千裕, がんサバイバーへの看護 集学的治療とサバイバー支援 内分泌療法, ナース専科, 35(11), 78-82, 2015. 査読無
- ④ 阿部恭子, 乳がん診療におけるコーディネーターの重要性, CLINICIAN, 643, 73-77, 2015. 査読無

〔学会発表〕(計3件)

- ① 阿部恭子, 金澤麻衣子, 荒堀有子, 佐藤まゆみ, 乳がん看護相談における相談内容と看護師から受けたケアによる患者の変化, 第30回日本がん看護学会学術集会, 2016.
- ② 阿部恭子, 金澤麻衣子, 荒堀有子, 佐藤まゆみ, 乳がん看護相談に携わる乳がん看護認定看護師に対する患者の期待, 第11回日本乳がん看護研究会, 2015.
- ③ 井関千裕, 若年乳がん患者へのかかわり, 第11回日本乳がん看護研究会, 2015.

〔図書〕(計8件)

- ① 武石優子, 阿部恭子, Chapter4 検査・治療に伴う乳がんケア 2. 手術療法時のケア, 阿部恭子・矢形寛編集, 学研, 乳がん患者ケアパーフェクトブック, 2017, 143-156.
- ② 阿部恭子, Chapter4 検査・治療に伴う乳がんケア 5. 内分泌療法時のケア, 阿部恭子・矢形寛編集, 学研, 乳がん患者ケアパーフェクトブック, 2017, 182-184.

- ③ 阿部恭子, Chapter5 乳がんケアと患者サポート 1. 乳がんケアの特徴, 阿部恭子・矢形寛編集, 学研, 乳がん患者ケアパーフェクトブック, 2017, 196-199.
- ④ 阿部恭子, Chapter5 乳がんケアと患者サポート 4. ボディイメージの変化へのサポート, 阿部恭子・矢形寛編集, 学研, 乳がん患者ケアパーフェクトブック, 2017, 212-215.
- ⑤ 阿部恭子, Chapter5 乳がんケアと患者サポート 9. 日常生活とセルフケア, 阿部恭子・矢形寛編集, 学研, 乳がん患者ケアパーフェクトブック, 2017, 245-247.
- ⑥ 阿部恭子, 第V章薬物療法中の性生活, 増田慎三編集, メジカルビュー社, 乳がん薬物療法副作用マネジメント, 2017, 398-401.
- ⑦ 阿部恭子, 第4章医療の質 チーム医療・クリティカルパス, 日本乳癌学会編, 金原出版株式会社, 乳腺腫瘍学 第2版, 2016, 350-352.
- ⑧ 村岡香織, 阿部恭子, 第4章乳がん・婦人科がん. 日本がんリハビリテーション研究会編, 金原出版株式会社, がんのリハビリテーションベストプラクティス, 2015, 91-116.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

阿部 恭子 (ABE, Kyoko)
千葉大学・医学部附属病院・技術補佐員
研究者番号: 00400820

(2) 研究分担者

佐藤 まゆみ (SATO, Mayumi)
千葉県立保健医療大学・健康科学部・教授
研究者番号: 10251191

井関 千裕 (ISEKI, Chihiro)
千葉大学・大学院看護学研究科・特任助教
研究者番号: 00736100
(平成26~28年度)

(3) 研究協力者

金澤 麻衣子 (KANAZAWA, Maiko)
東北大学病院・看護師
(平成26~28年度)

荒堀 有子 (ARAHORI, Yuko)
市立鉏路総合病院・看護師
(平成26~28年度)